

〔都市空間，屋上緑化・壁面緑化に向けた軽量・薄層基盤植物の開発（高度化事業）〕

屋上・壁面緑化に向けた植物生産技術の開発

～壁面緑化用つる性植物生産技術の開発～

渋谷圭助・田旗裕也

（都市環境科）

【要 約】 これまでに開発した早期長尺苗生産技術を用いることで，壁面緑化に供される生産量の多いつる植物 26 種類のうち，同年 8 月までに 12 種類，同年 10 月までに 3 種類長尺化することができる。

【目 的】

緑化需要期後に生じたつる植物余剰苗を用いて，次期の需要期に付加価値を付与することを目的に早期長尺化を図る。今回は，（社）日本植木協会の発行する「公共緑化用樹木市場調査 供給可能量・調達難易度調査書」から，壁面緑化に利用されていると考えられる，もしくは今後利用が見込まれるつる性植物を 26 種類選定し，これらについて，これまで確立した早期長尺苗生産技術を用いて長尺化を図る。

【方 法】

「平成 16 年度 公共緑化用樹木市場調査 供給可能量・調達難易度調査書」（（社）日本植木協会）に示されているつる植物の中から，壁面緑化に利用されていると考えられるもの，もしくは今後利用が見込まれるものを生産量の多い順に 26 種類選定し，供試した。2005 年 3 月 23 日に供試樹種の規格苗（9.0，10.5 ポット，H=30cm）を 18cm ポットに鉢替えした。仕立て方法は，地上部に設置し垂直方向に誘引する「登攀」とし，主幹長を 250cm まで調査した。用土はピートモス+パーライト（容積比 7：3）を用い，栽培はパイプハウス（夏期 60%遮光）内で行った。施肥は成分量で窒素-1g・リン酸-1g・カリ-1g / 1 L を元肥として速効性肥料（8-8-8）を鉢換え時に施用し，6 月 17 日に元肥と同量を追肥した。区制は 1 区 5 株で 2 反復とした。剪定作業は適宜，側枝を除去する程度行った。

【成果の概要】

- 1) スイカズラ，クレマチス“モンタナ”など 12 樹種は 8 月には平均主幹長が 200～250cm となり，短期間での長尺苗生産が可能であることが確認された（図 1）。
- 2) テイカズラ，テリハノイバラ，クレマチス“アーマンディ”は伸長の開始が遅いもしくは緩やかに伸長したため，平均が 200cm を超えるまでに時間を要した（図 2）。
- 3) ナツヅタ，ヘデラ・ヘリックスなど 5 樹種は調査期間中に平均 200cm にならなかったが，緩やかな成長が見られたことから，一定の時間をかけることで長尺化が可能であると考えられた。
- 4) ハツユキカズラ，ツルアジサイなど 6 樹種は極めて緩やかな成長を示した。これらは支持根が発達した植物群もしくは通常登攀性を示さないことから，今回用いた手法での長尺化は困難であると考えられた。
- 5) まとめ：これまでに開発した早期長尺苗生産技術を用いることで，壁面緑化に供される生産量の多いつる植物 26 種類のうち，同年 8 月までに 12 種類，同年 10 月までに 3 種類長尺化することができることが確認された。

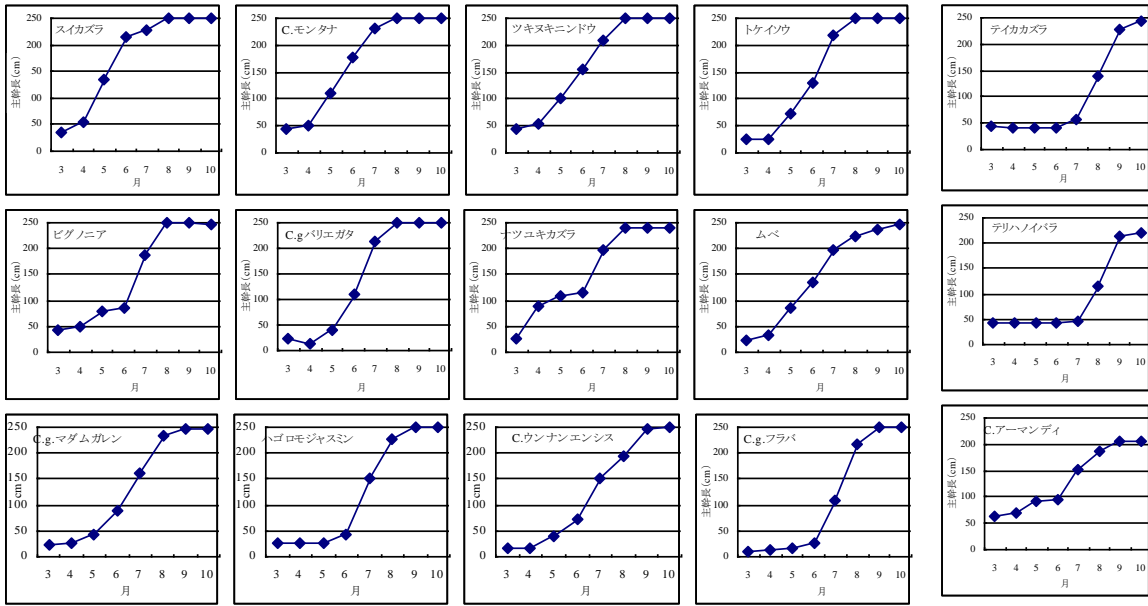


図1 比較的早く長尺化可能なグループ

図2 長尺化可能

なグループ

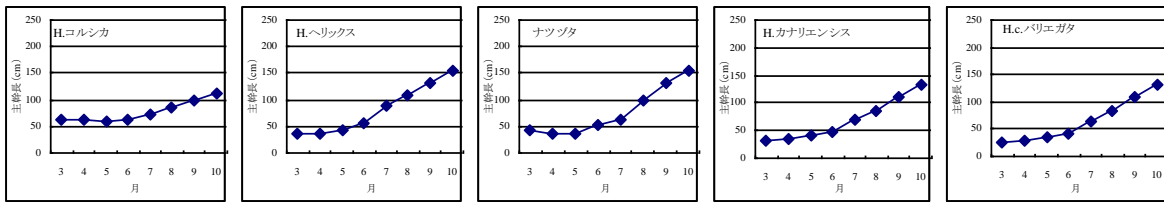


図3 長尺化に時間がかかるグループ

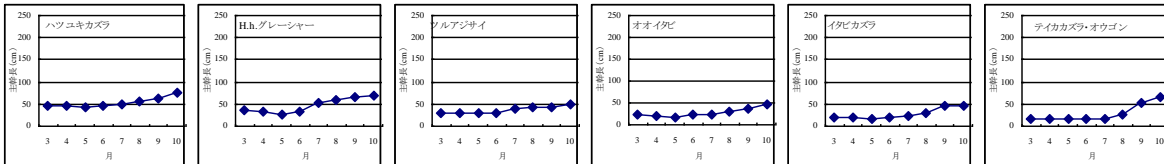



図4 長尺化が困難なグループ

ポットサイズ
15~18cm

用土
水持ちをよくするためにピートモス等有機質主体

肥料
元肥に窒素-1g/1L程度。追肥は梅雨時に1回が目安



支持体
2本のシュロ縄を縫って設置。

誘引方法
登攀（下から上につるを誘引）。先端をひもの隙間に入れる。

用いる苗
流通規格苗を3月~4月に鉢上げする。

図5 早期長尺苗生産技術